

忍野村

人口ビジョン

令和 2 年度改訂版

2021（令和 3）年 3 月

忍野村

目次

はじめに	2
I 章 人口ビジョン策定の考え方	3
I-1 近年の人口推移	3
I-2 出生数と死亡数（自然増減）	3
I-3 転入者数と転出者数（社会増減）	6
I-4 地区別人口の現状	8
(1) 地区別 人口の推移	8
(2) 地区別 転入転出の推移	13
I-5 近隣3市町村への転出	19
I-6 人口ビジョンの推計と現状との比較	20
II 章 人口推計	21
II-1 推計手法と Case 分類	21
(1) 推計手法	21
(2) Case 分類	22
II-2 推計結果（村全体の推計）	25
(1) 「Case1」による推計結果	25
(2) 「Case2」による推計結果	26
(3) 男女別・年齢層別の推計結果	27
II-3 推計結果（地区別の推計）	27
III 章 人口ビジョン（将来展望）	33

はじめに

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という）が実施した人口推計（2018年推計）によると、本村の人口は、2015年が8,968人、2020年が8,961人、2030年には8,922人へと減少していくと推計されています。

しかしながら、本村の住民基本台帳の人口では、2015年が9,231人（社人研との差+263人）、2020年が9,675人（+714人）と、社人研の人口推計とは逆に大きく増加する結果となっています。

これは、村内に立地する大手企業が、好調な業績に伴い社員の新規採用を維持若しくは増加してきており、これにより社員及びその家族が村内に定住しつつあることが大きな要因のひとつとして考えられます。

こうしたことから、本村の人口動向は、社人研による人口推計とは異なる結果となっているため、本村の将来展望を明らかにしていくには、直近の人口動向を踏まえた本村独自の推計が必要になると考えます。

一方、本村の独自推計による人口推計結果を見ると、そこには明るい側面だけでなく、村の課題も浮かび上がっています。

前述のとおり、本村の人口増加は主に大手企業の好調な業績によるものであることから、企業の新規採用に伴う居住者の増加が見込めなくなると、人口が減少に転じることになります。また、本村では人口の増加を受け入れるため、学校等の施設・設備の充実や道路整備等の公共施設整備に取り組んでいますが、今後の人口推計の結果により、今後の公共事業等をどのように進めていくか独自に判断していくことが必要になります。

こうした状況を村民の皆さんと共有し、今後の村の施策を着実かつ効果的に進めていくため、忍野村第6次総合計画後期基本計画および第II期総合戦略の策定に合わせて、人口ビジョンを改訂しました。

本人口ビジョンでは、これまでの本村の人口動向を踏まえた上で、社人研の人口推計結果と住民基本台帳人口との乖離を考慮し、本村を5地区に分けてその地区ごとに人口動向を把握し、人口増の要因となる自然増減と社会増減について分析しながら、極端な要因については一定の補正を行った上で推計しています。【独自推計 Case 1】

また、社人研の人口推計では、我が国全体の将来人口は今後大きく減少すると推計されており、本村についてもこうした影響を受けることは避けられないことから、今後の人口減少の変化率を加味した推計を行っています。【独自推計 Case 2】

なお、本人口ビジョンで描く将来展望の姿を実現するためには、行政のみならず、村民の皆様と一体となった取り組みが必要不可欠であることから、忍野村第6次総合計画後期基本計画および第II期総合戦略に具体的な取り組みを記載しています。

第1章 人口ビジョン策定の考え方

1-1 近年の人口推移

○村全体の人口が一貫して増加

本村の人口は、住民基本台帳人口によると近年増加傾向で推移しており、2000年の7,711人から2020年には9,675人へと増加しています。しかもこの間、5年ごとの比較で一度も減少することがなく一貫して増加しており、2000年と2020年の比較では約125%の増加となっています。また、この5年間隔ごとの伸び率も、4.6%~7.1%と安定しており、人口が一定の割合で堅調に増加している様子が伺えます。

○男女別の比率では、男性の増加が大きい

本村の人口を男女別にみると、全体では、男性の人口が女性の人口を上回っており、また2000年から2020年の5年ごとの比較でも、男性の人口が女性を上回っています。人数的にも2000年と2020年の比較では、男性が1,322人、女性が約642人の増加となるなど、特に男性の増加が大きくなっています。

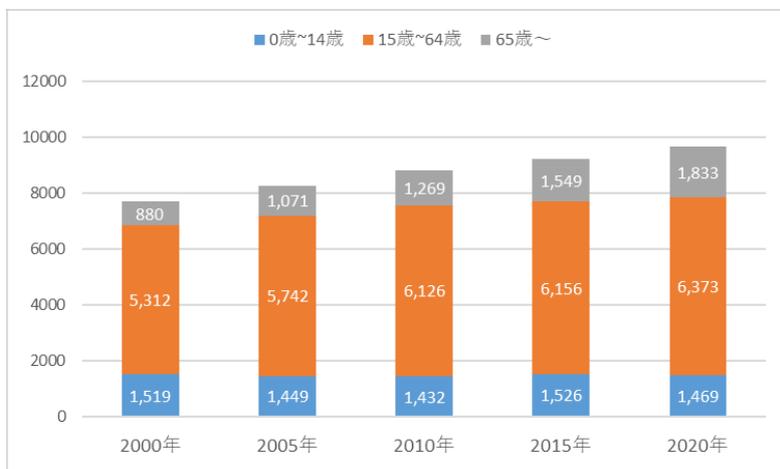
○年齢階層別では、生産年齢人口の占める割合が高い

年齢3区分別では、15歳~64歳の生産年齢人口の人口が多く、2020年では全人口に占める割合は65.9%となっています。また階層の伸び率では、65歳以上の伸びが大きく、この20年間で953人、伸び率で208%もの増加となっています。

忍野村の人口推移

(単位：人)

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	799	720	754	695	741	691	778	748	768	701
15歳～64歳	2,832	2,480	3,107	2,635	3,422	2,704	3,431	2,725	3,733	2,640
65歳～	353	527	425	646	524	745	676	873	805	1,028
男女別計	3,984	3,727	4,286	3,976	4,687	4,140	4,885	4,346	5,306	4,369
合計	7,711		8,262		8,827		9,231		9,675	



出典：住民基本台帳

1-2 出生数と死亡数（自然増減）

○自然増減は「自然増」であり、合計特殊出生率は山梨県平均よりも高い

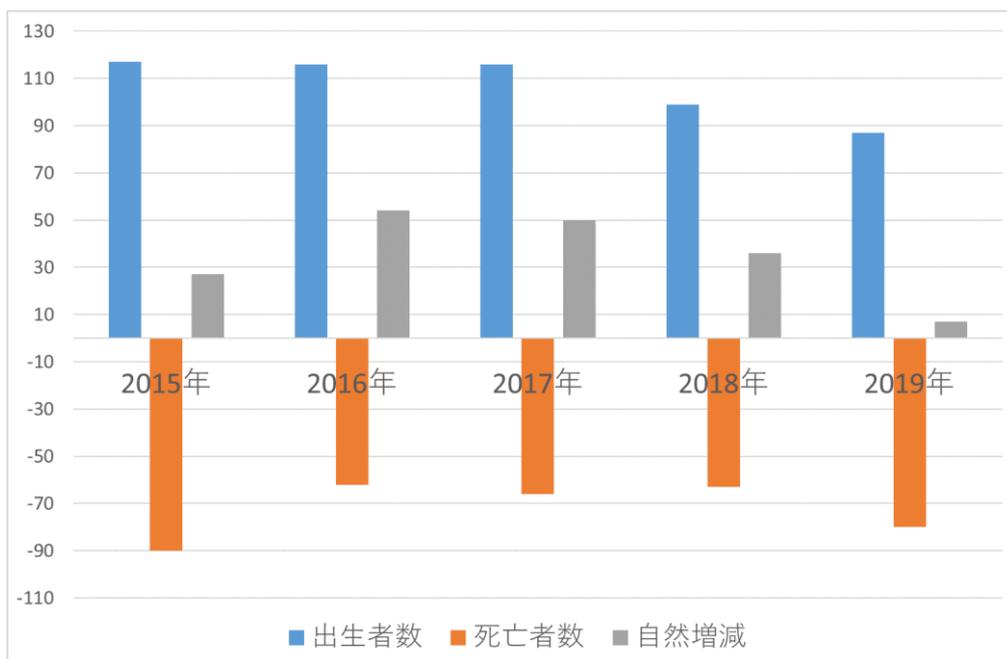
住民基本台帳から本村の出生数と死亡数を見ると下表のとおりとなっており、出生者数が死亡者数を上回る「自然増」の傾向が続いています。

本村の合計特殊出生率は、2008年から2015年までの間、1.8人程度で推移しており、2015年の1.82は山梨県平均の1.51を大きく上回り、また全国的に見ても高い出生率となっています。

本村の出生数と死亡数（自然増減）

（単位：人）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
出生者数	117	116	116	99	87
死亡者数	90	62	66	63	80
自然増減	27	54	50	36	7



出典：住民基本台帳

【参考】本村と山梨県の人口比較

山梨県の人口状況を見ると、過去5年間、総人口の減少が続いており、自然増減はマイナスが継続しているうえ、減少幅は年々大きくなっています。社会増減についてもマイナスが継続しています。

一方、本村の総人口は2015年度以降増加しており、2019年度には9,682人となっています。

また、自然増減の状況は、出生数が直近2年間においては減少傾向にあるものの、死亡数を上回っておりプラスになっています。

社会増減の状況は、過去5年間で2019年がマイナスになったものの、2015年～2018年はいずれもプラスとなっています。

忍野村と山梨県 人口の比較

■総人口の比較

単位：人

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
忍野村	9,231	9,368	9,502	9,564	9,682	9,675
山梨県	845,022	838,958	834,154	829,083	823,079	810,933

■忍野村の出生数と死亡数（自然増減）

単位：人

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
出生	117	116	116	99	87
死亡	-62	-62	-65	-63	-80
自然増減	55	54	51	36	7

■山梨県の出生数と死亡数（自然増減）

単位：人

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
出生	6,105	5,906	5,798	5,610	5,272
死亡	9,640	9,564	9,731	9,870	10,056
自然増減	-3,535	-3,658	-3,933	-4,260	-4,784

■忍野村の転入転出数（社会増減）

単位：人

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
転入	644	629	618	740	634
転出	515	594	596	646	642
増減	129	35	22	94	-8

■山梨県の転入転出数（社会増減）

単位：人

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
転入	31,894	31,073	32,051	33,047	33,500
転出	34,028	32,486	34,122	34,674	34,975
増減	-2,134	-1,413	-2,071	-1,627	-1,475

1-3 転入者数と転出者数（社会増減）

○転入転出者は県外との転入転出の方が県内よりも多い

住民基本台帳人口によると、2015年から2019年までの5年間における本村の転入者数と転出者数は、下表のようになっています。

転入・転出者の地域別の比較では、「県外」との転入・転出の方が、「県内の市町村」との人数よりも多くなっています。

また、市町村別では、富士吉田市、富士河口湖町など近隣市町村との転入・転出が多くなっており、特に富士吉田市との転入・転出者数は、東京都区部との間での人数を上回っています。

この結果、県内市町村との転入・転出者数は、2019年までの5年間で107名のマイナスとなっており、転出超過の状態となっています。

一方、県外市町村との転入出者数は、5年間でプラスとなっています。

忍野村 転入転出動向

■転入者数

(単位：人)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
富士吉田市	109	68	70	72	73
山中湖村	18	14	20	29	14
富士河口湖町	27	15	20	14	8
その他	97	75	73	73	85
県内計	251	172	183	188	180
東京都	71	92	99	99	96
神奈川県	41	39	47	78	61
千葉県	21	17	22	18	20
埼玉県	26	34	63	44	28
静岡県	46	55	37	45	59
栃木県	47	19	8	13	9
その他	114	153	124	205	131
県外計	366	409	400	502	404
不明	27	48	35	50	50
県内外合計	644	629	618	740	634

■転出者数

(単位：人)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
富士吉田市	87	67	100	110	86
山中湖村	11	19	12	27	12
富士河口湖町	36	55	38	43	51
その他	59	56	69	57	86
県内計	193	197	219	237	235
東京都	89	89	92	111	89
神奈川県	20	37	36	28	48
千葉県	5	20	38	11	14
埼玉県	26	25	43	33	26
静岡県	64	45	42	48	47
栃木県	12	71	14	14	13
その他	74	80	112	123	125
県外計	290	367	377	368	362
不明	32	30	34	41	45
県内外合計	515	594	596	646	642

■転入-転出

(単位：人)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	5年間計
富士吉田市	22	1	-30	-38	-13	-58
山中湖村	7	-5	8	2	2	14
富士河口湖町	-9	-40	-18	-29	-43	-139
県内計	58	-25	-36	-49	-55	-107
東京都	-18	3	7	-12	7	-13
神奈川県	21	2	11	50	13	97
千葉県	16	-3	-16	7	6	10
埼玉県	0	9	20	11	2	42
静岡県	-18	10	-5	-3	12	-4
栃木県	35	-52	-6	-1	-4	-28
県外計	76	42	23	134	42	317
県内外合計	129	35	22	94	-8	272

出典：住民基本台帳

○転入者では、0～14歳の乳幼児の転入者が多い

2000年から2015年までの社会増減を、5年ごとに年齢階層別の異動者数でみると、各年ともに0～14歳児の転入者が多くなっており、この4年で+527人の増加となっています。2000年～2015年までの4年の全ての転入者の増加が+723人なので、全体の72.9%を0～14歳の層が占めており、特に0～4歳の乳幼児の転入が多くなっています。

○男女別では15～24歳の層で「男性」が多く、25歳～34歳の層で「女性」が多い

社会増減の異動者数を年齢階層別・男女別でみると、15～24歳の層で男性の方が女性よりも多くなっています。特に2005年、2015年では20歳～24歳の男性転入者が100人を超える増加となっています。また、25歳～34歳の年齢層では、女性の転入者数が多くなっており、この傾向は2010年および2015年で特に顕著となっています。

年齢3区分別 転入転出人口（村全体） ※2020年は2月までの集計

（単位：人）

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	62	31	49	55	96	85	92	57	6	4
15歳～64歳	-56	-2	148	-8	20	29	211	38	-16	5
65歳～	-13	-12	-19	-18	-19	-32	-38	-33	-1	-1
男女別計	-7	17	178	29	97	82	265	62	-11	8
合計	10		207		179		327		-3	

社会増減の異動数（村全体） ※2020年は2月までの集計

（単位：人）

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～4歳	67	43	58	56	89	87	87	55	5	3
5歳～9歳	-5	-10	-8	-2	0	-1	1	6	1	1
10歳～14歳	0	-2	-1	1	7	-1	4	-4		
15歳～19歳	9	-4	17	-5	5	-4	35	-8		
20歳～24歳	5	-4	120	1	8	5	117	2	-4	1
25歳～29歳	-17	14	19	6	28	17	53	24	-8	-4
30歳～34歳	-25	-15	1	-3	-2	20	13	25	-4	6
35歳～39歳	-13	-5	-15	-1	-1	-7	5	1	-3	
40歳～44歳	-12	7	3	-1	-1	0	-1	4	3	1
45歳～49歳	3	-8	-2	-1	-9	2	4	2		
50歳～54歳	-7	4	1	-3	-2	-1	-9	-2	1	1
55歳～59歳	-3	6	3	0	-4	-1	-6	-2		
60歳～64歳	4	3	1	-1	-2	-2	0	-8	-1	
65歳～69歳	-1	4	-2	-2	-4	-2	-5	-2		
70歳～74歳	-5	0	-1	-2	-3	-1	1	-1		-1
75歳～79歳	0	-3	-2	3	-1	-4	-10	0	0	
80歳～84歳	-1	-4	-4	-3	-3	-6	-9	-2	-1	
85歳～89歳	-3	-4	-3	-6	-5	-6	-6	-9		0
90歳以上	-3	-5	-7	-8	-3	-13	-9	-19	0	0
合計	-7	17	178	29	97	82	265	62	-11	8

1-4 地区別人口の現状

(1) 地区別 人口の推移

住民基本台帳により本村の5地区の人口（2020年2月現在）を見ると、人口の多い順に、忍草地区、内野地区、ファナック地区、平山地区となっています。また、ヨハネ・自衛隊地区では、特定の年代に人口が偏在し14歳未満がないこと、ファナック地区では、65歳以上の人口がごく少数であることなどの特徴があります。

■地区別 年齢3区分別人口

出典：住民基本台帳 2020年 (単位：人)

	全体	内野	忍草	平山	ヨハネ自衛隊	ファナック
0歳～14歳	1,469	428	646	22	0	373
15歳～64歳	6,373	1,956	2,219	175	383	1,640
65歳～	1,833	941	794	63	26	9
合計	9,675	3,325	3,659	260	409	2,022

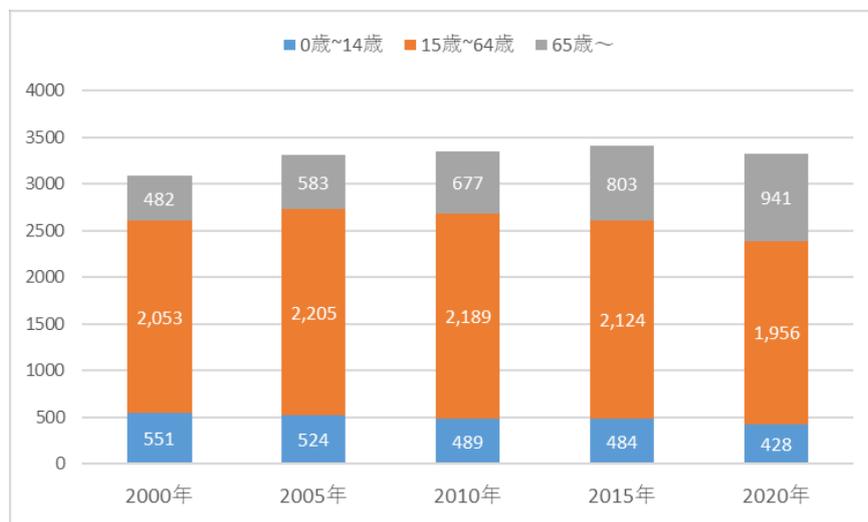
○内野地区

内野地区の2000年から2020年までの推移では、2000年から2015年までは人口が増加してきましたが、2020年では、やや減少しており、2000年と2020年を比較すると+239人の微増となっています。また、男女比では、総数で2005年までは男性が女性を上回っていましたが、2010年以降は女性の方が多くなっています。しかしながら、0～14歳及び15～64歳の年齢層では、全期間で男性の方が多くなっています。

■内野地区 年齢3区分別人口

出典：住民基本台帳 (単位：人)

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	301	250	297	227	253	236	253	231	235	193
15歳～64歳	1,061	992	1,148	1,057	1,144	1,045	1,102	1,022	1,039	917
65歳～	187	295	218	365	262	415	347	456	409	532
男女別計	1,549	1,537	1,663	1,649	1,659	1,696	1,702	1,709	1,683	1,642
合計	3,086		3,312		3,355		3,411		3,325	



○忍草地区

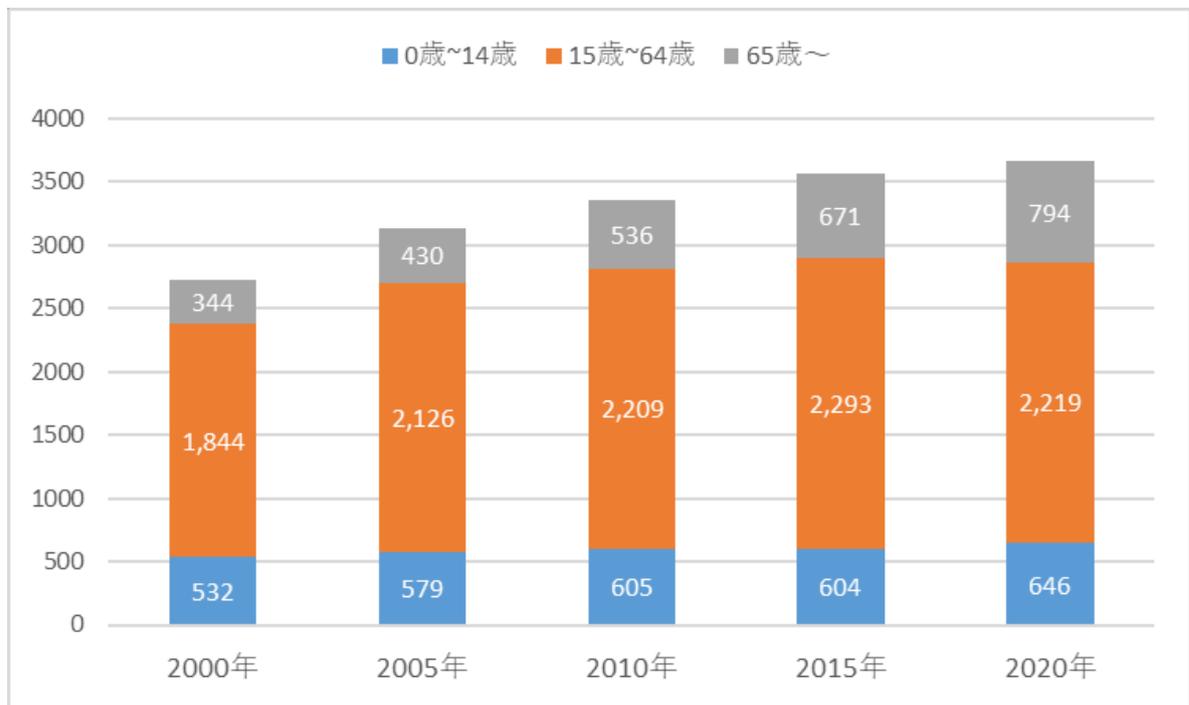
忍草地区では、2000年から2020年まで一貫して人口が増加しています。2000年と2020年と比較すると+939人と大きく増加しています。また、男女比では、総数において全期間とも女性が男性を上回っていますが、15～64歳の年齢層では、全期間で男性の方が女性を上回っています。

■忍草地区 年齢3区分別人口

出典：住民基本台帳

(単位：人)

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	278	254	286	293	304	301	288	316	310	336
15歳～64歳	937	907	1,079	1,047	1,108	1,101	1,150	1,143	1,131	1,088
65歳～	143	201	178	252	237	299	302	369	356	438
男女別計	1,358	1,362	1,543	1,592	1,649	1,701	1,740	1,828	1,797	1,862
合計	2,720		3,135		3,350		3,568		3,659	



○平山地区

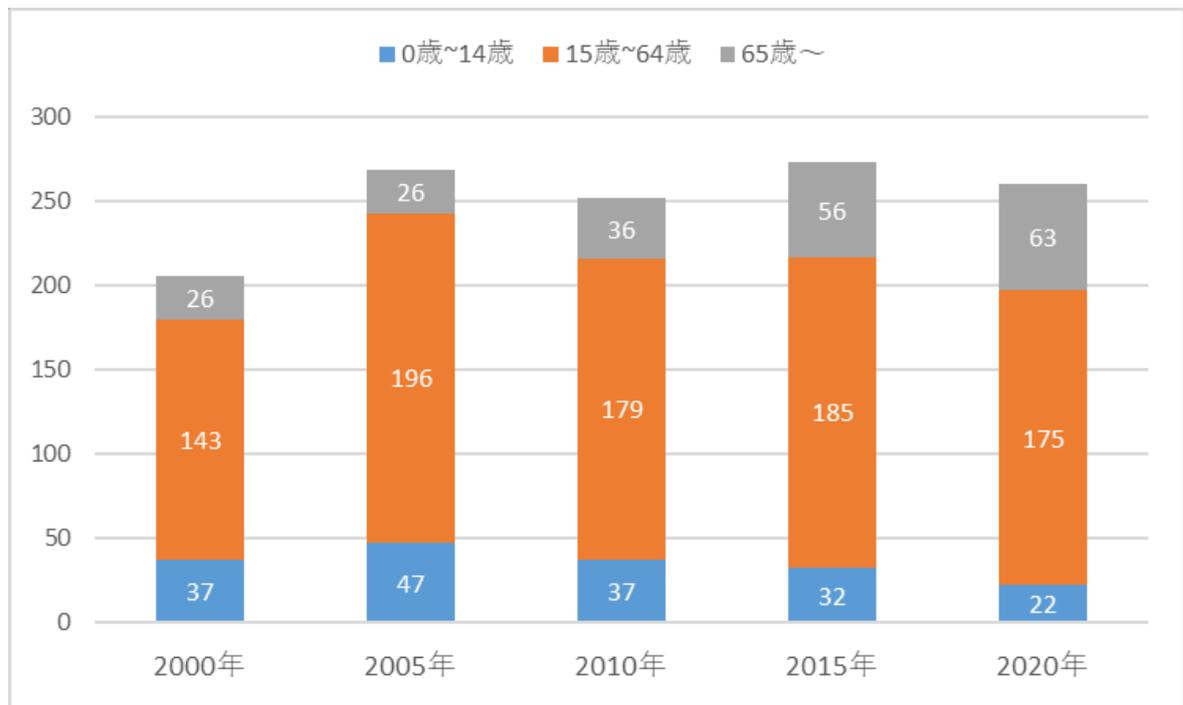
平山地区では、人口合計が年によって増減する状況となっておりますが、全体的には増加傾向となっており、2000年と2020年との比較では+54人の増加となっております。また男女比では、年によりバラつきが見られますが、15～64歳の年齢層では、全期間にわたり男性の方が多くなっています。

■平山地区 年齢3区分別人口

出典：住民基本台帳

(単位：人)

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	22	15	19	28	19	18	14	18	9	13
15歳～64歳	74	69	102	94	93	86	102	83	95	80
65歳～	10	16	11	15	16	20	20	36	27	36
男女別計	106	100	132	137	128	124	136	137	131	129
合計	206		269		252		273		260	



○ヨハネ・自衛隊地区

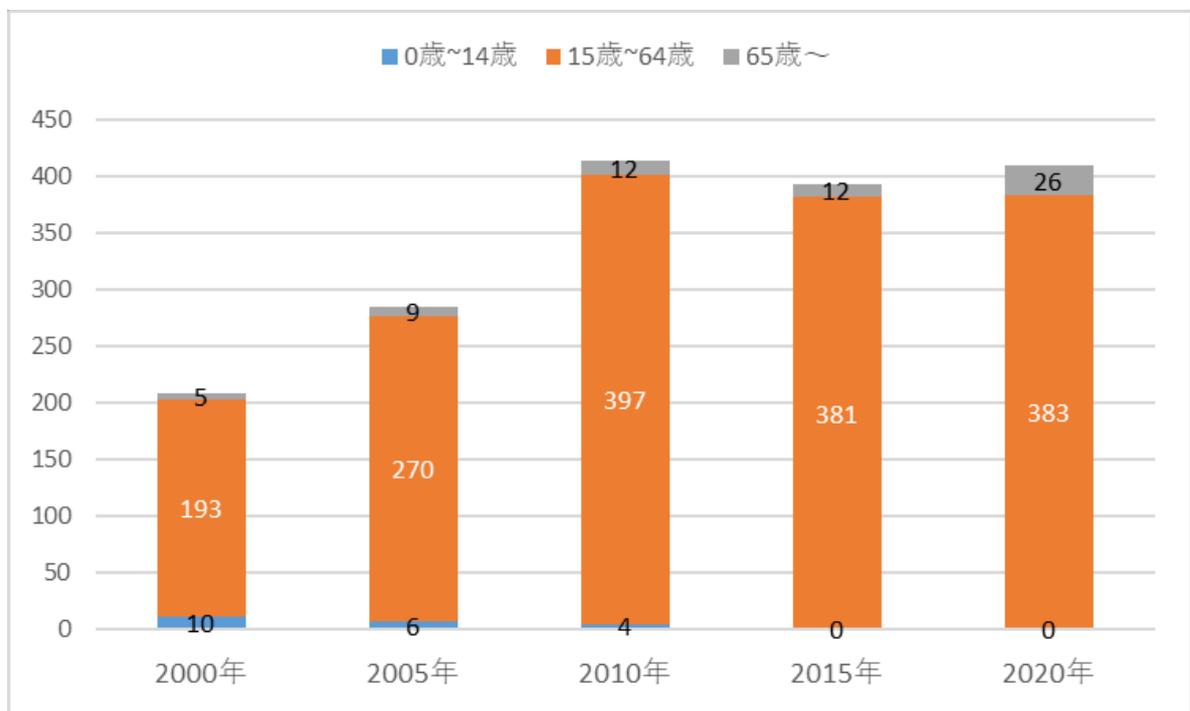
ヨハネ・自衛隊地区では、人口合計が年によって増減する状況となっておりますが、全体的には増加傾向となっており、2000年と2020年を比較すると+201人と2倍近い増加となっております。また男女比では、男性の人口が女性を大きく上回っているほか、0～14歳及び65歳以上の年齢層で人口が極端に少なくなっています。

■ヨハネ・自衛隊地区 年齢3区分別人口

出典：住民基本台帳

(単位：人)

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	8	2	5	1	3	1	0	0	0	0
15歳～64歳	122	71	194	76	308	89	305	76	317	66
65歳～	1	4	3	6	4	8	3	9	7	19
男女別計	131	77	202	83	315	98	308	85	324	85
合計	208		285		413		393		409	



○ファナック地区

ファナック地区では、2000年から2020年まで、一貫して人口が増加しています。

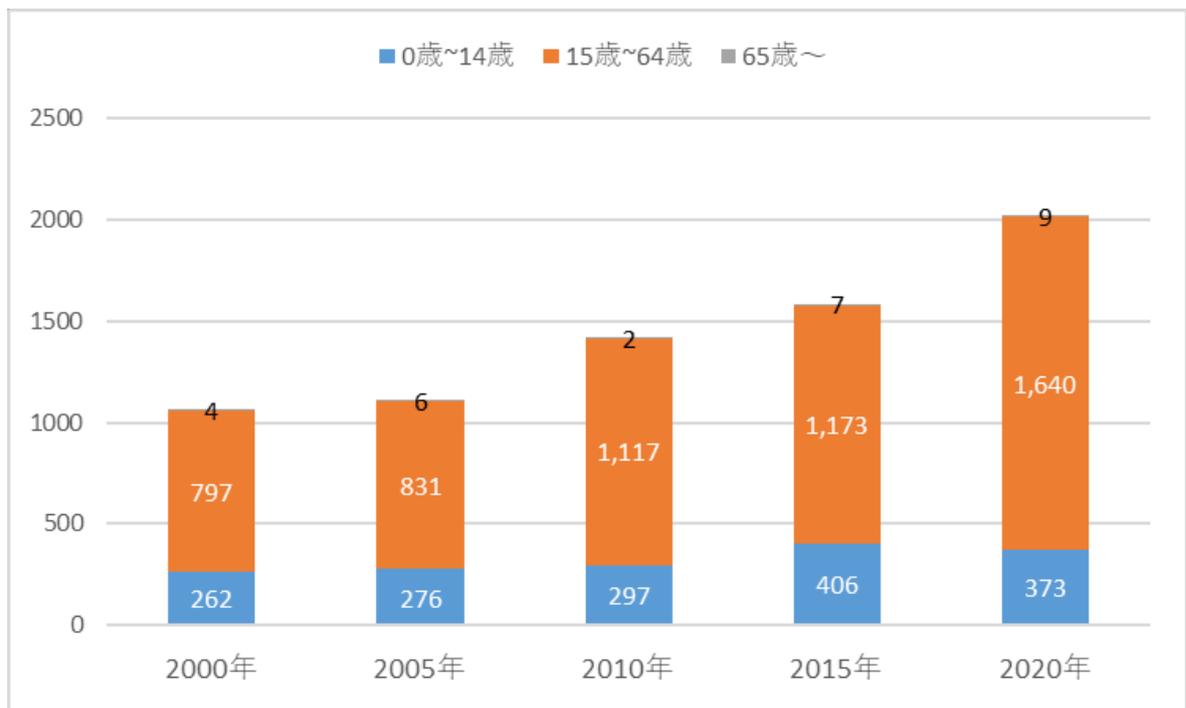
2000年と2020年を比較すると+959人と二倍近い増加となっています。また男女比では、男性の人口が女性を大きく上回っており、特に15～64歳の年齢層で、その傾向が顕著になっています。

■ファナック地区 年齢3区分別人口

出典：住民基本台帳

(単位：人)

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	125	137	141	135	162	135	223	183	214	159
15歳～64歳	517	280	533	298	756	361	772	401	1,151	489
65歳～	1	3	3	3	0	2	4	3	6	3
男女別計	643	420	677	436	918	498	999	587	1,371	651
合計	1,063		1,113		1,416		1,586		2,022	



(2) 地区別 転入転出の推移

2015年度の住民基本台帳により、本村5地区の転入者・転出者の状況を見ると、忍草、ファナック両地区への転入者が多くなっています。また、ヨハネ・自衛隊地区を除き各地区で0～14歳層の転入者が増加するとともに、ファナック地区では15～64歳層の増加が顕著になっています。

■地区別 年齢3区分別人口

出典：住民基本台帳 2015年

(単位：人)

	全体	内野	忍草	平山	ヨハネ自衛隊	ファナック
0歳～14歳	149	29	76	3	0	41
15歳～64歳	249	5	8	8	-2	230
65歳～	-71	-34	-29	-2	-2	-4
合計	327	0	55	9	-4	267

○内野地区

内野地区の2000年から2020年までの推移では、2000年及び2010年で総数が大きく増加しています。男女比では、あまり大きな特徴は見られませんが、年齢層別では0～14歳の層で増加しており、65歳以上の層では減少となっています。特に、0～4歳の年齢層での増加が顕著になっています。

■内野地区

出典：住民基本台帳

(単位：人)

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	27	11	14	14	29	30	22	7	1	0
15歳～64歳	-1	-8	5	-10	-8	4	2	3	-2	0
65歳～	-11	-8	-11	-11	-12	-14	-16	-18	0	-1
男女別計	15	-5	8	-7	9	20	8	-8	-1	-1
合計	10		1		29		0		-2	

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～4歳	26	12	16	16	25	25	20	7	1	0
5歳～9歳	1	-1	-1	-1	2	5	1	-2		
10歳～14歳			-1	-1	2	0	1	2		
15歳～19歳	-3	1	0	-4	-6	-3	-2	-4		
20歳～24歳	8	0	1	-1	-4	0	1	3	-1	1
25歳～29歳	-1	-4	1	-3	1	4	7	3	-1	-3
30歳～34歳	-3	-1	3	2	3	8	0	-1	-3	1
35歳～39歳	3	-1	-2	-1	0	-3	-1	4		
40歳～44歳		3	-1		1	0	0	-1	2	1
45歳～49歳	0	-4	1	-1	0	1	0	-1		
50歳～54歳	-1	-1	2	1	0	2	-1	0	1	
55歳～59歳	-4	-1	0	-2	-1	-3	0	1		
60歳～64歳	0		0	-1	-2	-2	-2	-1		
65歳～69歳	-2	1	-1		-2	-1	-1	0		
70歳～74歳	-2		-2	0	-2	-1	-2	1		-1
75歳～79歳	-1	-2		3	0	-2	-3	0	0	
80歳～84歳	-1	-3	-2	-3	-1	-2	-2	-1		
85歳～89歳	-2	-1	-2	-4	-4	-1	-2	-4		0
90歳以上	-3	-3	-4	-7	-3	-7	-6	-14	0	0
合計	15	-5	8	-7	9	20	8	-8	-1	-1

○忍草地区

忍草地区では、2000年から2015年にかけて総数が大きく増加しています。男女比では、全体的に男性の人口が大きく増加しており、また年齢層別では0～14歳の層で大きく増加するとともに、65歳以上の層では減少となっています。0～4歳の年齢層は、この地区においても増加が顕著になっています。

■忍草地区

出典：住民基本台帳
(単位：人)

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	34	14	22	31	34	27	47	29	0	1
15歳～64歳	15	16	14	0	10	11	9	-1	-3	2
65歳～	-3	-3	-8	-9	-5	-17	-16	-13	-1	0
男女別計	46	27	28	22	39	21	40	15	-4	3
合計	73		50		60		55		-1	

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～4歳	30	14	19	25	32	31	37	24		1
5歳～9歳	2	0	1	1	-2	-5	7	9		
10歳～14歳	2		2	5	4	1	3	-4		
15歳～19歳	2	0	-1	-4	-3	-2	-4	-3		
20歳～24歳	6	-4	11	-1	3	4	4	-4		
25歳～29歳	5	3	0	6	4	4	3	0	-2	
30歳～34歳	-4	-1	3	-4	5	0	7	11	-1	1
35歳～39歳	5	2	-1	3	0	-3	-1	-3		
40歳～44歳	-4	4	5	1	-3	1	1	2	1	
45歳～49歳	2	-1	-1		-1	3	1	2		
50歳～54歳	-2	4	-2	-1	3	0	-3	-4		1
55歳～59歳	0	6	0	2	-1	2	-2	2		
60歳～64歳	5	3	0	-2	3	2	3	-4	-1	
65歳～69歳	1	2	0	-2	-1	-1	0	-1		
70歳～74歳	-3	0	1	-3	-1	-1	3	-1		
75歳～79歳		0	-2		-1	-3	-7			
80歳～84歳		-1	-3	-1	-2	-1	-5	-1	-1	
85歳～89歳	-1	-2	-1	-2		-5	-4	-5		
90歳以上	0	-2	-3	-1	0	-6	-3	-5	0	0
合計	46	27	28	22	39	21	40	15	-4	3

○平山地区

平山地区では、2015年に若干の増加が見られていますが、全体的に人数が少ないこともあり特別な傾向は見られていません。男女比、及び年齢層別でも、人数が少なく特別な様子は見られません。

■平山地区

出典：住民基本台帳 (単位：人)

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	1	2	3	-2	0	2	1	2	0	0
15歳～64歳	-3	-2	1	-1	1	-1	6	2	0	1
65歳～	1	0	0	1	-1	0	-2	0	0	0
男女別計	-1	0	4	-2	0	1	5	4	0	1
合計	-1		2		1		9		1	

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～4歳	1	1	3			2	1	2		
5歳～9歳				-1						
10歳～14歳		1		-1						
15歳～19歳	1	-1	-2			1	2			
20歳～24歳	0	-1			-2	-2	-1	1		
25歳～29歳	2	1	0	1	3		0	-2		
30歳～34歳	0	0	0	-1	0	1	1		1	1
35歳～39歳	0	1		0	1	-1	1	1	-1	
40歳～44歳	-3		1	-1		0	1	1		
45歳～49歳		-2	0				1	1		
50歳～54歳	-2	0	1	-1	-1		1	1		
55歳～59歳	-1									
60歳～64歳			1	1				-1		
65歳～69歳			-1				-1			
70歳～74歳				1		1				
75歳～79歳	1					1				
80歳～84歳			1			-2	-1			
85歳～89歳					-1					
90歳以上										
合計	-1	0	4	-2	0	1	5	4	0	1

○ヨハネ・自衛隊地区

ヨハネ・自衛隊地区では、2005年がやや増加しているものの、全体的には転出者の方が転入者を上回る傾向が見られています。男女比では、15～19歳の男性の転入が多く、25～29歳の転出が多くなっており、地域内にある自衛隊北富士駐屯地での動向が大きく影響しているものと思われます。北富士駐屯地のあるヨハネ・自衛隊地区に赴任のため10代で転入し、その若者が適齢期を迎え結婚して所帯を持つために地区外に転出していくという状況が推量されます。

■ヨハネ・自衛隊地区

出典：住民基本台帳 (単位：人)

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	-2	-2	0	0	0	0	0	0	0	0
15歳～64歳	-18	-4	8	1	-2	-7	4	-6	-5	-1
65歳～	0	-1	0	1	0	1	-1	-1	0	0
男女別計	-20	-7	8	2	-2	-6	3	-7	-5	-1
合計	-27		10		-8		-4		-6	

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～4歳	-1	-1								
5歳～9歳	-1	-1								
10歳～14歳										
15歳～19歳	14		22	3	15	1	31			
20歳～24歳	-6		2	1	-6	-2	-7	-1	-2	
25歳～29歳	-14		-8	-1	-1	-1	-12	0	-2	-1
30歳～34歳	-5	-2	-4		-4		-4	0	-1	
35歳～39歳	-6	-2	-3		-2	-1	-1			
40歳～44歳	0		1		1		-3			
45歳～49歳			-3	-1	-2		1			
50歳～54歳				-2	-1	-3	-1			
55歳～59歳			1	1	-1			-3		
60歳～64歳	-1				-1	-1		-2		
65歳～69歳						1	0			
70歳～74歳								-1		
75歳～79歳		-1								
80歳～84歳				1			-1			
85歳～89歳										
90歳以上										
合計	-20	-7	8	2	-2	-6	3	-7	-5	-1

○ファナック地区

ファナック地区では、地区の大手企業の採用により、年により大きなバラつきが見られますが、2005年及び2015年に15～64歳層の男性の増加が大きくなっています。また、0～4歳の年齢層での増加が顕著になっているほか、25～34歳層の女性の増加も大きくなっています。

■ファナック地区

出典：住民基本台帳 (単位：人)

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	3	6	10	12	33	26	22	19	5	3
15歳～64歳	-16	9	120	2	19	22	190	40	-6	3
65歳～	0	0	0	0	-1	-2	-3	-1	0	0
男女別計	-13	15	130	14	51	46	209	58	-1	6
合計	2		144		97		267		5	

	2000年		2005年		2010年		2015年		2020年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～4歳	12	15	20	15	32	29	29	22	4	2
5歳～9歳	-8	-7	-8	-1		-1	-7	-1	1	1
10歳～14歳	-1	-2	-2	-2	1	-2	0	-2		
15歳～19歳	-1		-2		-1	-1	8	-1		
20歳～24歳	11	4	106	2	17	5	120	3	-1	
25歳～29歳	-2	15	26	3	21	10	55	23	-3	0
30歳～34歳	-11	-8	-1	0	-6	11	9	15	0	3
35歳～39歳	-11	-4	-9	-3	0	1	7	-1	-2	
40歳～44歳	-5	0	-3	-1	0	-1	0	2		
45歳～49歳	1		1	1	-6	-2	1	0		
50歳～54歳	0	1		0	-3		-5	1		
55歳～59歳	2	1	2	-1	-1	0	-4	-2		
60歳～64歳				1	-2	-1	-1			
65歳～69歳		1			-1	-1	-3	-1		
70歳～74歳										
75歳～79歳										
80歳～84歳						-1				
85歳～89歳		-1								
90歳以上										
合計	-13	15	130	14	51	46	209	58	-1	6

1-5 近隣3市町村への転出

県内で本村からの転出者が多い富士吉田市、山中湖村、富士河口湖町など、近隣の3市町村との状況を年代別にみると次のとおりです。

■富士吉田市、山中湖村、富士河口湖町への転出者数（2019年度）

（単位：人）

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100歳以上	合計	10歳未満+30代~40代	10歳未満+20代~30代
富士吉田市	14	5	23	23	10	3	6	0	1	1	0	86	47	60
山中湖村	1	0	7	1	1	0	2	0	0	0	0	12	3	9
富士河口湖町	13	3	14	12	5	0	3	0	0	1	0	51	30	39
合計	28	8	44	36	16	3	11	0	1	2	0	149	80	108

出典：住民基本台帳

通常、転出の大きな契機は、進学や就職、結婚等によるものであり、転出者数が最も多くなるのは10歳代後半から20歳代となります。

しかしながら、本村では、近隣の3市町村への転出者は、20歳代、30歳代が多くなっており、40歳代にも多くの転出者がいます。これは、進学や就職以外の要因で転出している人が多いためと考えられます。

転出の要因が、結婚に伴う住宅の購入など、進学や就職以外の要因によって近隣に転居されているのであれば、「忍野村の村内に留まらない」「周辺3市町村に転出する方が良い」ということとなります。

2019年度においては、周辺3市町村への10歳未満及び30・40歳代の転出者が、計80名となっており、仮に、このうち1/3の方が村内に居住したものとすれば、1年で26名、4年間（第II期総合戦略の対象期間）で104名の転出を抑制できることとなります。これは、過去5年間の県内の転出超過数に匹敵する人数です。

また、10歳未満及び20・30歳代の転出者が計108名となっており、転出者数の約7割を占めています。4年間に換算すると432名が転出していることになり、これは2020年にヨハネ・自衛隊地区に在住している人数とほぼ同数になります。

こうした、村内での居住、即ち村内の住宅事情や居住環境等に関する事項については、今後の人口の維持増加に向けての方策を検討する上で、大きな要素となるものと思われます。

1-6 人口ビジョンの推計と現状との比較

本村の人口推計は、「忍野村人口ビジョン」を2016年3月に策定した際に行っております。

ここでは、本村の将来人口の見通しとして「2030年将来人口 見通し：10,418人」「2040年の将来人口 目標：10,000人」とし、その実現を目指すこととしています。この際、2020年の人口も推計されており、その人数は10,103人と予測となっておりますが、実際の2020年の住民基本台帳人口は9,675人であり、予測値とは-428人の差となっております。

一方、本村の人口推計は、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という）でも行っています。社人研が過去に実施した人口推計と実際の住民基本台帳の人口を比較すると、2018年、2013年、2018年の過去3回の推計が、ともに将来的には減少傾向にあると見込んでいるのに対し、実際の人口は2000年以降2020年まで一貫して増加しています。また、社人研の推計との乖離は年数が経つにつれて大きくなっており、2020年時点の人口では、最も差の小さいものでも+714人と、前回人口ビジョンの予測値-428人より差が開いています。

■本村の人口推移（実績）と忍野村人口ビジョン（2016年3月）推計との差

（単位：人）

	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
住民基本台帳人口	7,711	8,262	8,827	9,231	9,675
Case1			-135	-126	392
Case2			-135	-126	-428
Case3			-135	-126	-36

資料：住民基本台帳、忍野村人口ビジョン（2016年3月）

■本村の人口推移（実績）と国立社会保障・人口問題研究所推計との差

（単位：人）

	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
住民基本台帳人口	7,711	8,262	8,827	9,231	9,675
2008年推計		-228	319	778	1,335
2013年推計			192	628	1,139
2018年推計				263	714

資料：住民基本台帳、社人研「日本の地域別将来推計人口」

こうした予測値との差が生じた要因としては、村内に立地する大手企業の業績が好調であり、村内に居住する社員及びその家族が増加したこと等があげられますが、こうした傾向が今後数十年も継続していくという保証はありません。

このため、村の将来計画を策定する上での重要な要素である「人口推計」については、社人研の推計結果の傾向を踏まえながら、本村に適した別の手法によって推計することが必要となります。

第2章 人口推計

2-1 推計手法と Case 分類

(1) 推計手法

将来人口推計の仕組みとして、一般的なコーホート法による人口推計方法の概要について解説します。

○人口変動の三要素

人口は、出生によって増加し、死亡によって減少し、移動（転入・転出）によって増減します。この、出生・死亡・移動は、「人口変動の三要素」と呼ばれ、人口はこれらの要素のみによって変動します。

人口変動の三要素は、男女、年齢、配偶関係、家族構成、職業、居住地域といった様々な属性の影響を受けますが、人口を推計するにあたっては、多くの属性を全て考慮することは現実的ではなく、一般的に、男女・年齢別の人口を基礎として将来推計が行われることが多くなっています。

○コーホート法

人口の推計方法としては、「コーホート法」が多く用いられます。

コーホート法は、年齢による人口変動の違いに着目し、時間の経過に伴う人口構造の変化を積み上げて将来人口を推計する方法です。

この「コーホート」とは、人口観察に用いられる単位集団で、通常は、ある一定の期間に生まれた集団を意味します。例えば、「2000年生まれのコーホート」といえば、2000年の1年間に生まれた集団を指します。ある年の出生が多い場合は、その世代は年齢を重ねても多いまま推移し、出生が少ない世代では少ないまま推移します。また、結婚や出産、死亡などは、性別や年齢との関連が大きくなります。

コーホート法には、「コーホート変化率法」と「コーホート要因法」の2種類があります。

① コーホート変化率法

コーホート変化率法は、過去の2つの時点の年齢別人口から求めた各コーホートの変化率に基づき、将来人口を推計する方法です。コーホート変化率法では、人口変動の要因は考慮せず、一定期間における各コーホートの変化率そのものが対象地域の年齢別人口変化の特徴であるとして人口を推計しています。

この手法は、基準年の年齢別人口と、比較対象となる過去の時点の年齢別人口があれば推計が可能のため、後述するコーホート要因法より簡便な推計手法となります。

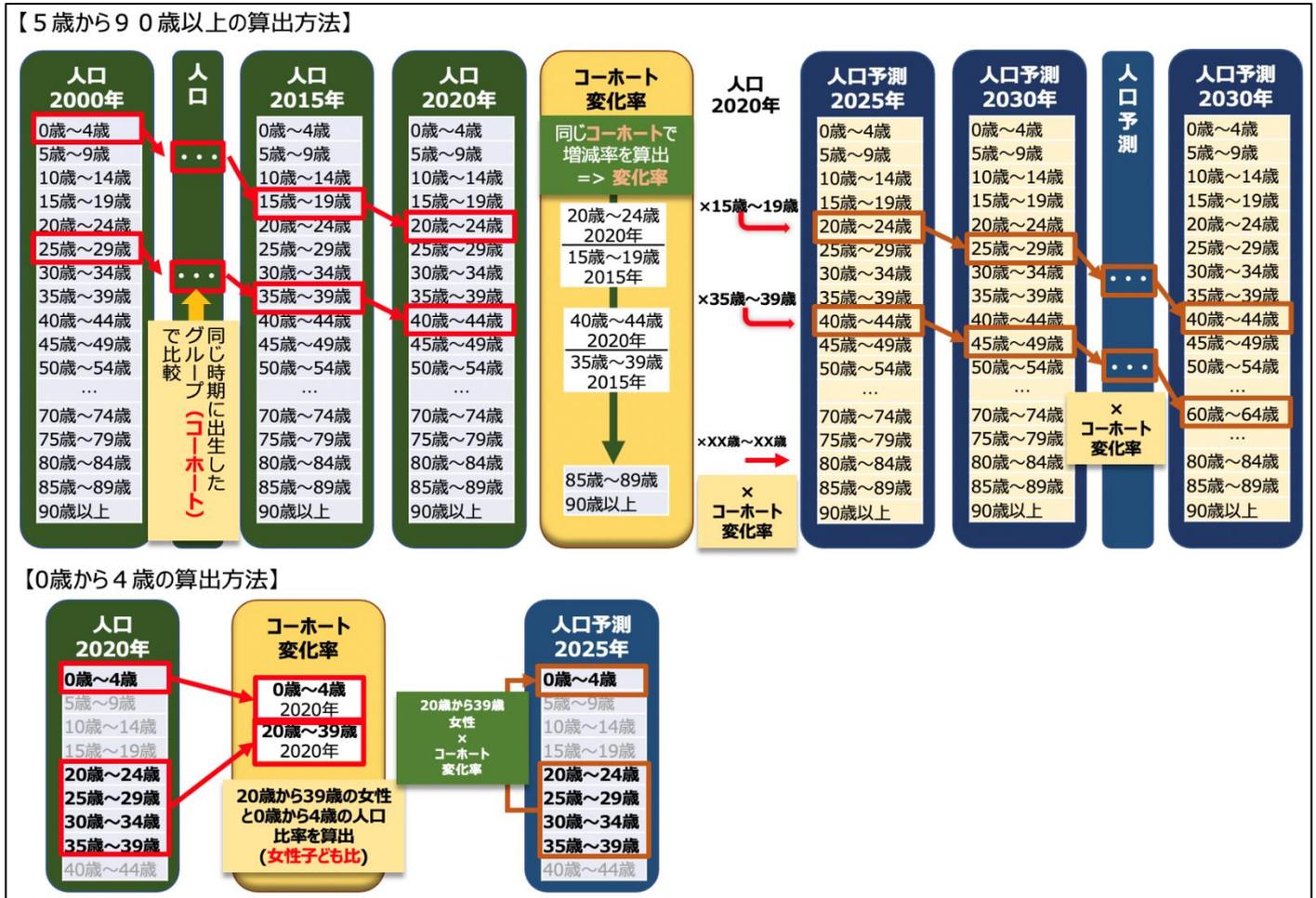
② コーホート要因法

コーホート要因法は、出生・死亡・移動の人口変動の要因別に設定した変化率に基づいて、将来人口を推計する方法です。この手法は、要因別に仮定値を設定するため、コーホート変化率法と比較して一定の精度が期待できますが、一方で、小規模な地域ではサンプルが少ないことから対象

地域の仮定値の設定が難しく、推計の精度が低くなる傾向があります。

今回の推計では、国でも推奨している手法の一つである「コーホート変化率法」を採用し、これに基づき本村の状況を踏まえながら推計を行っています。

将来人口の計算イメージ



注) 0～4歳人口は5年前では生まれていないため、コーホート変化率を算出できません。

そこで、2020年の「女性子ども比」が今後も続くと仮定して0～4歳人口を算出しています。

(2) Case 分類

本村の人口推計は、2000年から2020年までの5ヵ年ごとの住民基本台帳人口を基に、基準年の年齢別人口と5年後の年齢別人口の変化率を算出し、これを推計の基礎データとして用いています。そのうえで、村全体の転入・転出者の人数、および各地区別の転入者・転出者の人数を住民基本台帳人口により5ヵ年ごとに把握し、社会的増減の要因に基づく変化率として加味しています。

さらに本村の出生率は、直近の2015年および2018年が、ともに1.82と全国平均の1.51～1.53に比べ大幅に高くなっていることから、この1.82という出生率を用いて推計しています。

○Case1

本村の2000年から2020年までの住民基本台帳の人口について、各地区別および村全体の合計で示すと次のようになります。

この内、ヨハネ・自衛隊地区は、自衛隊北富士駐屯地の居住状況により、この20年で2倍近く増加しています。また、ファナック地区でもファナック社の従業員の採用状況により、同様に大きく増加しています。

これまで、ファナック社は日本を代表する工作機械製造企業として順調に成長してきており、今後も数年間は現状の採用人数での採用が続く予定とされていますが、今後数十年もの期間をこれまでの傾向を基に推計していくことには無理があると考えます。また、ヨハネ・自衛隊地区における自衛隊の隊員数は、国の施策や海外情勢の変化等大きく左右されると思われます。

このように、現状では、ヨハネ・自衛隊地区とファナック地区の人口増が顕著であることから、このまま現状での数値に基づき単純に村全体人口推計を行うことは適切ではないと考えます。このため、村内を、内野地区、忍草地区、平山地区、ヨハネ・自衛隊地区、ファナック地区の5地区に区分し、地区ごとに人口推計を行い、それらの合計値を村全体の将来人口推計とすることとします。

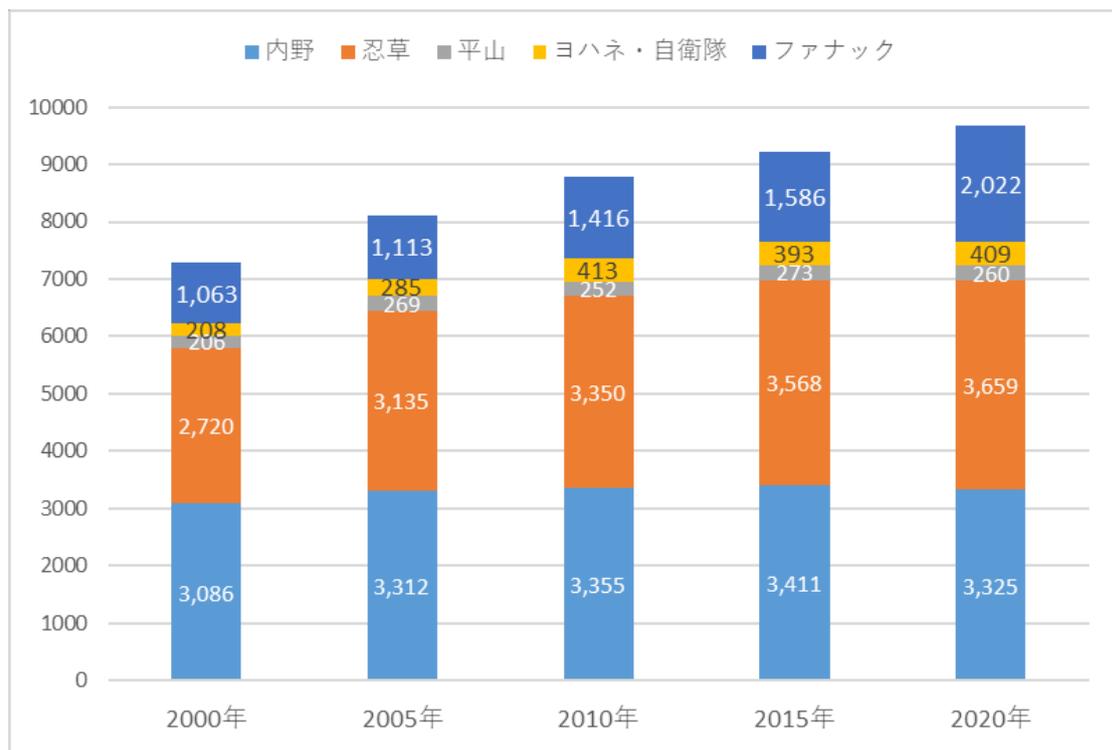
なお、ヨハネ・自衛隊地区とファナック地区は、今後、横這いからやや増加する程度に将来の変化率を抑えて推計することとし、それ以外の地区では、これまでの傾向に沿った推計とします。

これを「Case1」の推計とします。

■過去の地区別人口の推移

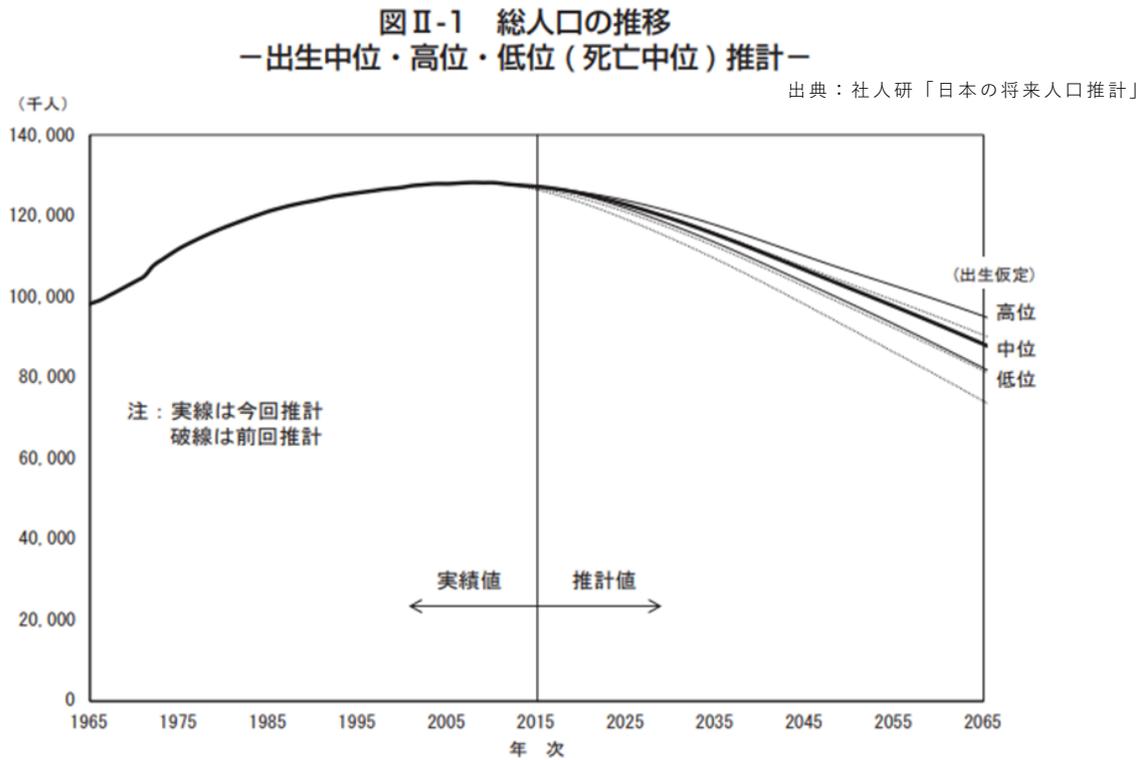
(単位：人)

地区名	2000年			2005年			2010年			2015年			2020年			20年間の伸び率 (合計)
	合計	男	女													
内野	3,086	1,549	1,537	3,312	1,663	1,649	3,355	1,659	1,696	3,411	1,702	1,709	3,325	1,683	1,642	107.74%
忍草	2,720	1,358	1,362	3,135	1,543	1,592	3,350	1,649	1,701	3,568	1,740	1,828	3,659	1,797	1,862	134.52%
平山	206	106	100	269	132	137	252	128	124	273	136	137	260	131	129	126.21%
ヨハネ・自衛隊	208	131	77	285	202	83	413	315	98	393	308	85	409	324	85	196.63%
ファナック	1,063	643	420	1,113	677	436	1,416	918	498	1,586	999	587	2,022	1,371	651	190.22%
計	7,283	3,787	3,496	8,114	4,217	3,897	8,786	4,669	4,117	9,231	4,885	4,346	9,675	5,306	4,369	132.84%



○Case2

国勢調査によると、2015年の日本の総人口は1億2,709万人でしたが、社人研の「日本の将来人口推計」によると、この時期を境に日本の総人口は2015年以降、長期の人口減少過程に入ると推計されています。



この推計は、「高位」「中位」「低位」3段階に分けて公表されており、中間の「中位」推計では、総人口は、2040年の1億1,092万人を経て、2053年には1億人を割り9,924万人となり、2065年には8,808万人になるとされています。

また、低位推計では2049年に1億人を割り、2065年には8,213万人になると推計されています。

なお、一番人口が多くなる高位推計では、2059年に1億人を割って9,952万人となり、2065年には9,490万人になるとされています。

このため、この高位推計においても、50年後の2065年では2015年の70.6%とされており、その過程では、2030年に120,172千人（-5.4%）、2040年112,284千人（-11.7%）、2050年103,398千人（-18.6%）、2060年94,437千人（-25.7%）と大きく減少していく推計となっています。

これまで本村の人口は、増加傾向で推移してきましたが、本村においてもこうした日本全体の減少傾向の影響をある程度受けることは避けられないものと予想されます。

このため、2025年以降、「Case1」の推計に加え、自然増減・社会増減の両指標において社人研の減少傾向を加味して推計することとし、これを「Case2」の推計とします。

2-2 推計結果 (村全体の推計)

(1) 「Case1」による推計結果

Case1による推計結果は、次のようになります。

内野地区が減少傾向と推計されており、忍草地区は増加傾向となっています。

平山地区は、基礎データとして用いた人数が少ないため、ほんの数人の増減で推計結果が大きく変化する傾向があります。

また、ヨハネ・自衛隊地区、およびファナック地区は、社会増減の変化率を抑えてあるため、横這いから微増という結果となっています。

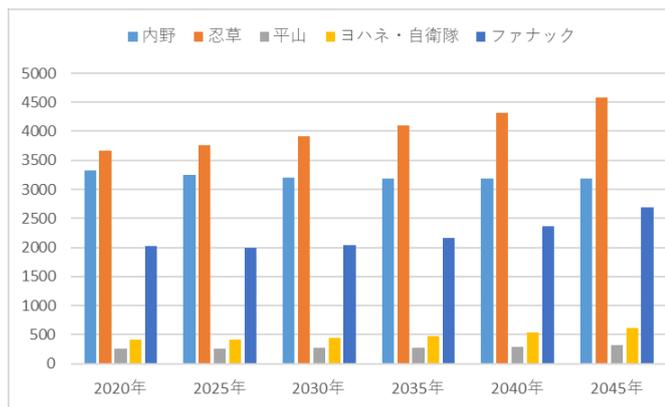
これらの地区の合計である村全体の推計ですが、2035年で10,204人 +5.4%、2045年で11,395人 +17.8%、の増加となっています。

過去の村の人口が、2000年から2020年までの20年間で25.5%の増加となっており、これらの過去の傾向がある程度反映されるため、結果として村全体の人口が増加する推計となっています。

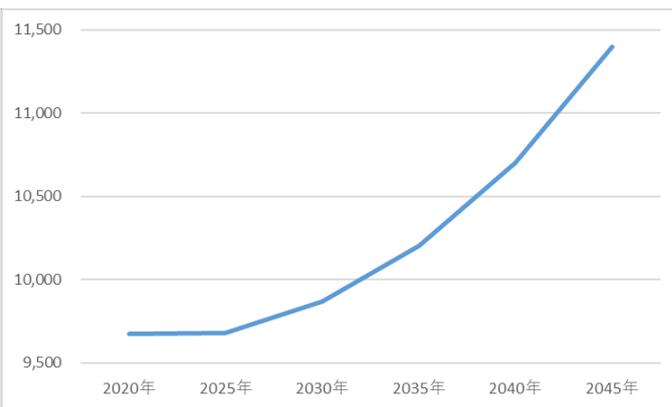
忍野村 人口推計結果 (Case1)

(単位：人)

地区名	2020年			2025年			2030年			2035年			2040年			2045年		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
内野	3,325	1,683	1,642	3,246	1,644	1,602	3,209	1,620	1,589	3,192	1,604	1,588	3,188	1,595	1,593	3,189	1,592	1,597
忍草	3,659	1,797	1,862	3,765	1,846	1,919	3,912	1,921	1,991	4,097	2,016	2,081	4,320	2,136	2,184	4,585	2,278	2,307
平山	260	131	129	262	132	130	268	135	133	277	141	136	288	148	140	314	162	152
ヨハネ・自衛隊	409	324	85	415	338	77	440	364	76	480	401	79	536	450	86	612	514	98
ファナック	2,022	1,371	651	1,992	1,349	643	2,039	1,371	668	2,158	1,434	724	2,368	1,548	820	2,695	1,724	971
計	9,675	5,306	4,369	9,680	5,309	4,371	9,868	5,411	4,457	10,204	5,596	4,608	10,700	5,877	4,823	11,395	6,270	5,125



地区別人口グラフ (Case1) (単位：人)



総人口推移 (Case1) (単位：人)

(2) 「Case2」による推計結果

Case2による推計結果は、次のようになります。

村全体では、2035年で9,969人 +3.0%の増加、2045年で9,922人 +2.6%の増加となっています。

社人研の推計では、日本全体が2060年で-25%もの減少とされ、忍野村の推計においても減少傾向とされているのに対し、このCase2の推計では、現在の人口をほぼ維持できる結果となっています。

また、「Case1」と比べると、Case2では、社人研の推計結果を加味して将来的な減少傾向を反映させたことから、Case1よりも低い数値となっています。

地区別では、Case1と同様に、内野地区が減少傾向、忍草地区が増加傾向、平山地区がほぼ横這いとなっています。

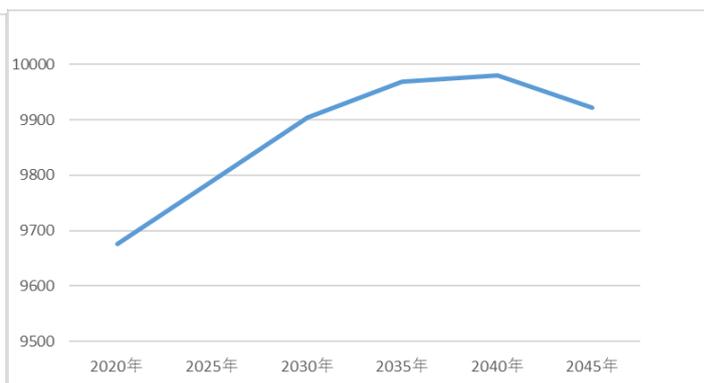
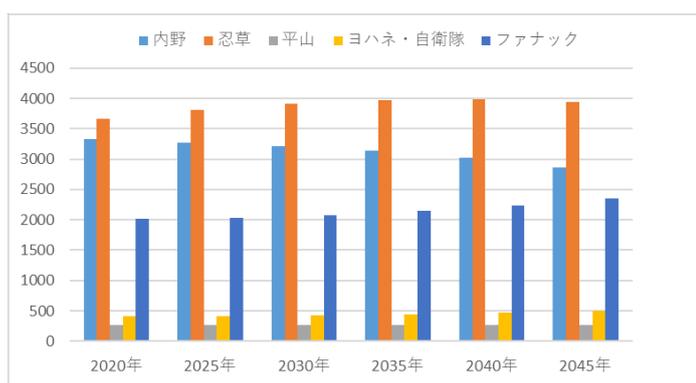
また、ヨハネ・自衛隊地区、およびファナック地区は、社会増減の変化率を抑えてあるため、Case1よりやや低いものの横這いから微増の傾向となっています。

この日本全体の影響を加味した「Case2」を、本村における将来人口推計値として採用することとします。

忍野村 人口推計結果 (Case2)

(単位：人)

地区名	2020年			2025年			2030年			2035年			2040年			2045年		
	合計	男	女															
内野	3,325	1,683	1,642	3,272	1,659	1,613	3,217	1,626	1,591	3,134	1,579	1,555	3,020	1,515	1,505	2,869	1,435	1,434
忍草	3,659	1,797	1,862	3,807	1,867	1,940	3,917	1,924	1,993	3,977	1,959	2,018	3,986	1,972	2,014	3,934	1,956	1,978
平山	260	131	129	263	132	131	266	135	131	269	136	133	269	137	132	268	137	131
ヨハネ・自衛隊	409	324	85	415	338	77	428	354	74	447	373	74	470	395	75	496	417	79
ファナック	2,022	1,371	651	2,032	1,375	657	2,077	1,396	681	2,142	1,425	717	2,236	1,462	774	2,355	1,504	851
計	9,675	5,306	4,369	9,789	5,371	4,418	9,905	5,435	4,470	9,969	5,472	4,497	9,981	5,481	4,500	9,922	5,449	4,473



(3) 男女別・年齢層別の推計結果

「Case2」では、本村の5地区の地区別人口推計を合計した本全体の推計は、現在の9,675人が、2035年には9,969人(+3.0%)、2045年には9,922人(+2.6%)の増加となっています。

また男女比では、今後も男性の人口が女性を上回る傾向となっており、特に15～64歳の生産年齢人口の階層で男性の方が多くなっています。

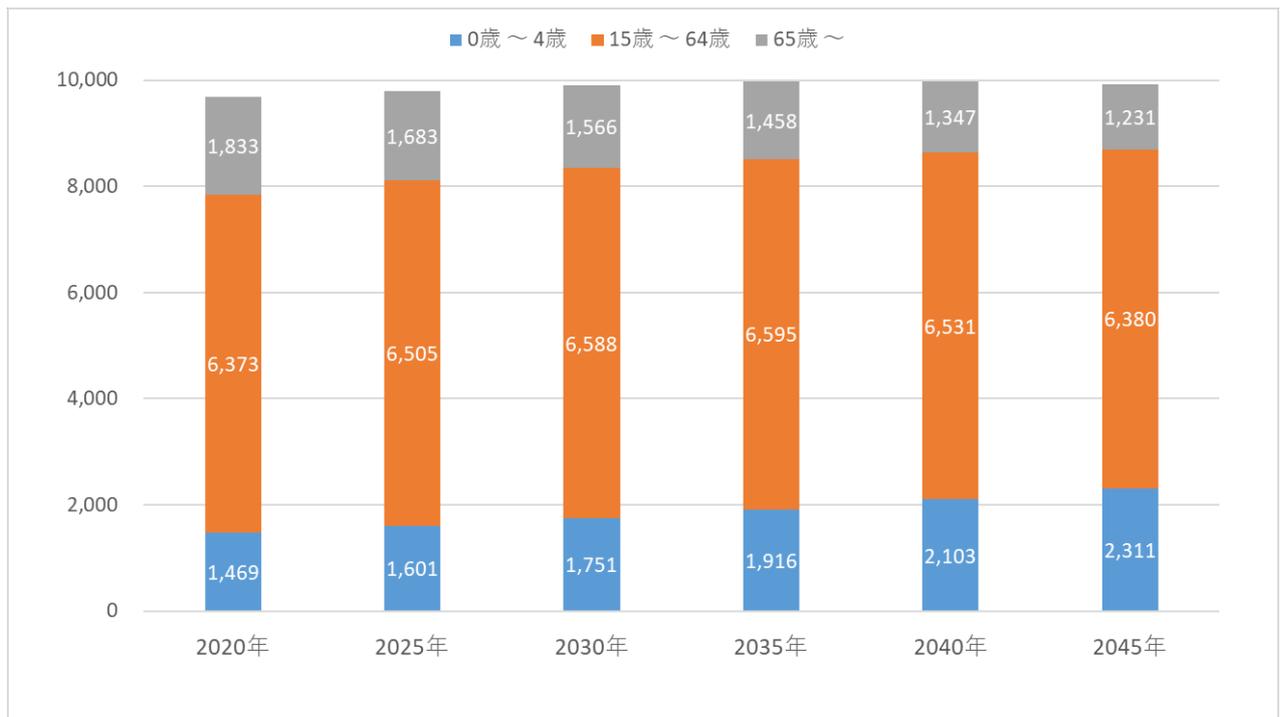
これを年齢階層別で見ると、0～14歳の階層では、現在の1,469(男性768人、女性701人)から2035年には1,916人(男性975人、女性941人)+30.4%、2045年には2,311人(男性1,163人、女性1,148人)+57.3%と大きく増加し、また15～64歳の階層では、現在の6,373(男性3,733人、女性2,640人)人が2035年には6,595人(男性3,890人、女性2,705人)+3.5%、2045年には6,380人(男性3,792人、女性2,588人)(+0.1%)とやや増加するとされています。

一方、65歳以上の階層では、年数の経過とともにやや減少する傾向となっています。これは、推計過程の中で、自然増減と社会増減の両指数に社人研のマイナス傾向を加え抑制する方向で算出したこと、また、ヨハネ・自衛隊地区及びファナック地区には、現状でも65歳以上の高齢者が少ない上に、企業や自衛隊を定年退職後に他の地域に転出する傾向が強いことなどが反映されたものと推測されます。

■年齢3区分別人口の推移(村全体)

(単位:人)

	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年		2045年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	768	701	827	774	896	855	975	941	1,064	1,039	1,163	1,148
15歳～64歳	3,733	2,640	3,816	2,689	3,875	2,713	3,890	2,705	3,865	2,666	3,792	2,588
65歳～	805	1,028	728	955	664	902	607	851	552	795	494	737
男女別計	5,306	4,369	5,371	4,418	5,435	4,470	5,472	4,497	5,481	4,500	5,449	4,473
合計	9,675		9,789		9,905		9,969		9,981		9,922	



(単位:人)

2-3 推計結果（地区別の推計）

前述までの人口推計結果（Case2）に基づき、村内5地区の年齢階層別・男女別推計人口について分析します。

○内野地区

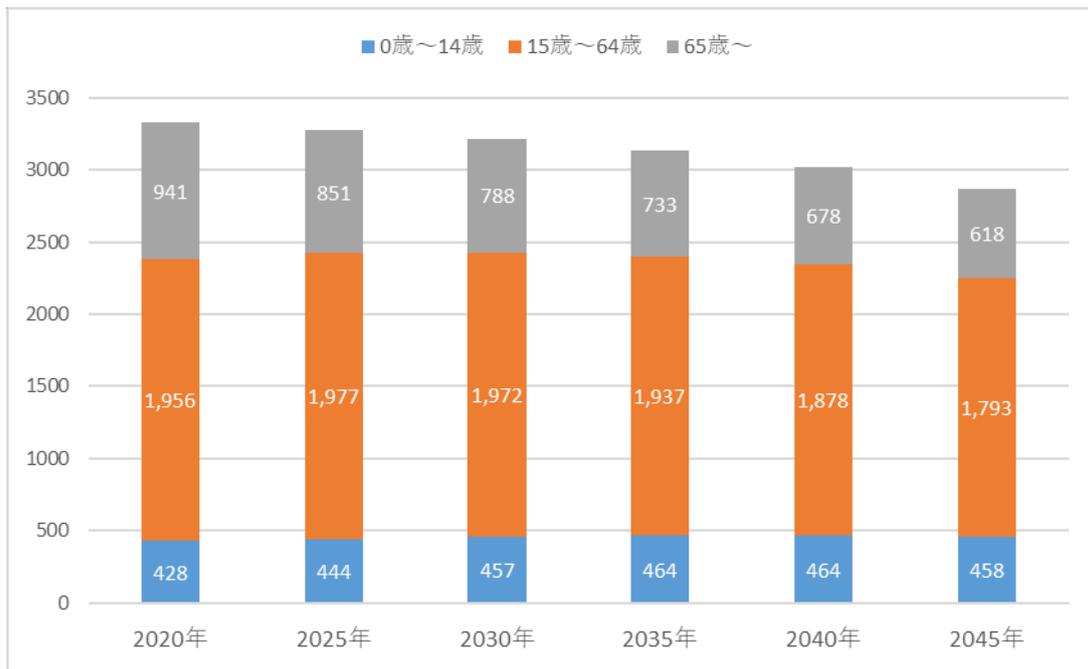
内野地区では、全体的に減少傾向となっており、現在の3,325人が2035年には3,134人（-5.7%）、2045年には2,869人（-13.7%）へと大きく減少するとされています。

また男女比では、全ての期間で男性の人口が女性を上回っています。

なお、65歳以上の年齢層では、全期間で女性の人口が男性を上回っています。

（単位：人）

	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年		2045年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	235	193	244	200	251	206	256	208	256	208	253	205
15歳～64歳	1,039	917	1,049	928	1,045	927	1,025	912	991	887	945	848
65歳～	409	532	366	485	330	458	298	435	268	410	237	381
男女別計	1,683	1,642	1,659	1,613	1,626	1,591	1,579	1,555	1,515	1,505	1,435	1,434
合計	3,325		3,272		3,217		3,134		3,020		2,869	



（単位：人）

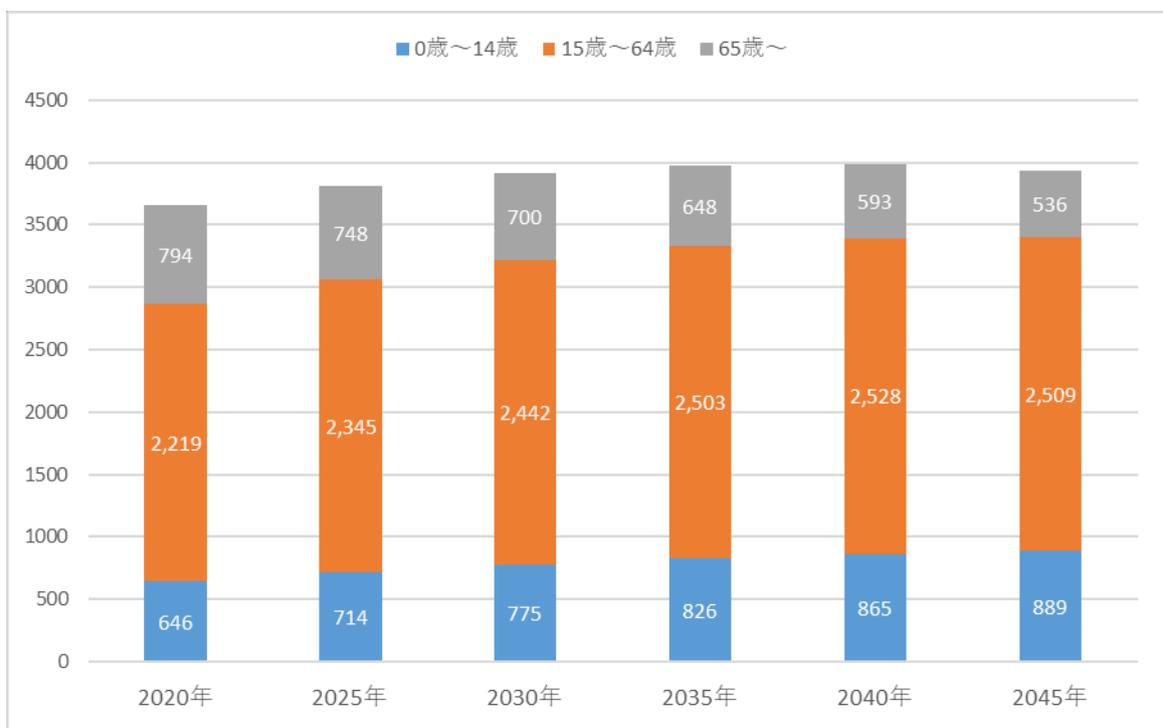
○忍草地区

忍草地区では、全体的に増加傾向となっており、現在の3,659人が2035年には3,977人(+8.7%)、2045年には3,934人(+7.5%)に増加するとされています。

また男女比では、全ての期間で女性の人口が男性を上回る傾向となっていますが、15～64歳の階層では全期間で男性の人口が女性を上回っています。

(単位：人)

	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年		2045年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	310	336	343	371	373	402	398	428	418	447	431	458
15歳～64歳	1,131	1,088	1,190	1,155	1,238	1,204	1,269	1,234	1,284	1,244	1,279	1,230
65歳～	356	438	334	414	313	387	292	356	270	323	246	290
男女別計	1,797	1,862	1,867	1,940	1,924	1,993	1,959	2,018	1,972	2,014	1,956	1,978
合計	3,659		3,807		3,917		3,977		3,986		3,934	



(単位：人)

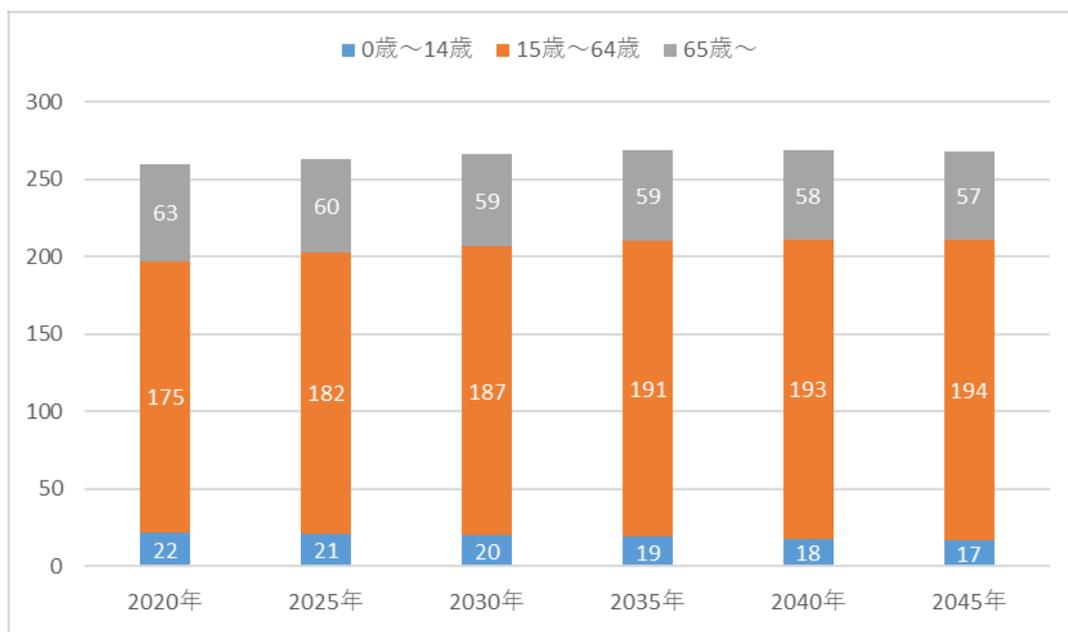
○平山地区

平山地区では、全体的には微増傾向となっており、現在の260人が2035年には269人(+3.4%)と増加しますが、2045年には268人(+3.0%)と横這いに転じるとされています。

また男女比では、全体的に男性の方が徐々に増える傾向が見られており、15～64歳の年齢層では、全ての期間で男性の人口が女性を上回っています。

(単位：人)

	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年		2045年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	9	13	9	12	9	11	9	10	9	9	9	8
15歳～64歳	95	80	102	80	109	78	113	78	117	76	120	74
65歳～	27	36	21	39	17	42	14	45	11	47	8	49
男女別計	131	129	132	131	135	131	136	133	137	132	137	131
合計	260		263		266		269		269		268	



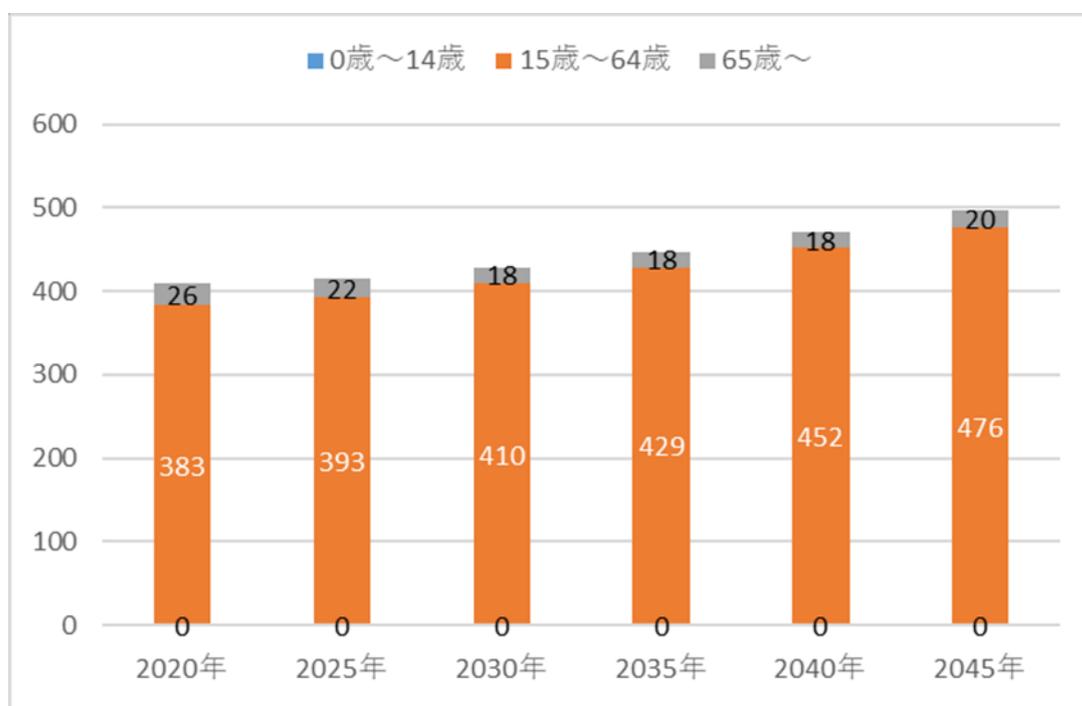
(単位：人)

○ヨハネ・自衛隊地区

ヨハネ・自衛隊地区では、2035年には447人(+9.3%)、2045年には496人(+21.5%)となっています。男女比では、男性の人口が女性を大きく上回るほか、0～14歳及び65歳以上の年齢層が0人と極端に少ないなど、現在の状況が反映された結果となっています。

(単位：人)

	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年		2045年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15歳～64歳	317	66	333	60	351	59	370	59	392	60	414	62
65歳～	7	19	5	17	3	15	3	15	3	15	3	17
男女別計	324	85	338	77	354	74	373	74	395	75	417	79
合計	409		415		428		447		470		496	



(単位：人)

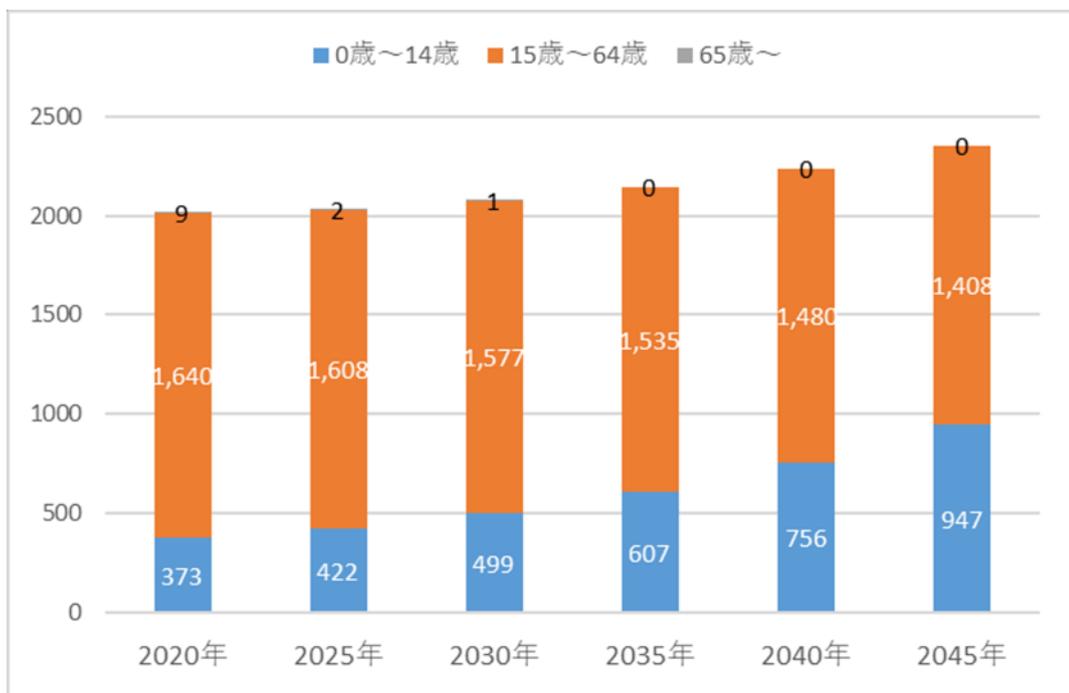
○ファナック地区

ファナック地区では、現在の 2,022 人が 2035 年には 2,142 人 (+5.9%)、2045 年には 2,355 人 (+16.4%) と、やや増加するという推計となっています。

男女比では、全ての年齢階層で男性の人口が女性を上回る傾向となっており、更に、年齢階層別では、65 歳以上の階層が極端に少ないなど、現在の状況が反映された結果となっています。

(単位：人)

	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年		2045年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳～14歳	214	159	231	191	263	236	312	295	381	375	470	477
15歳～64歳	1,151	489	1,142	466	1,132	445	1,113	422	1,081	399	1,034	374
65歳～	6	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
男女別計	1,371	651	1,375	657	1,396	681	1,425	717	1,462	774	1,504	851
合計	2,022		2,032		2,077		2,142		2,236		2,355	



(単位：人)

第3章 人口ビジョン（将来展望）

今後の本村の将来人口は、横這いから微増の傾向となっています。

日本全体の将来人口推計では、今後、我が国の人口は大きく減少していく傾向にあるとされており、本村も例外ではありません。

一方、本村の人口は、過去20年においては堅調に増加する傾向となっていました。これには、村内大手企業の採用者数やその結婚と出産の動向、村内にある自衛隊駐屯地の動向等が大きく影響してきました。

しかしながら、企業の業績等は長期的に保証されたものではなく、継続的な採用と結婚および出産が少なくなれば、本村の人口はたちまち減少に転じるとともに、自衛隊駐屯地が存在する地区の人口は、世界的な情勢の変化に大きく左右されるものと思われま。

今後、本村においては、多少の状況の変動があったとしても、一定程度の人口規模の維持と増加が図られるよう、目標を掲げながら各種施策を展開していくべきであると考えます。

このため、2035年の将来人口の見通し、及び2045年の将来人口目標を以下のとおりとします。

2030年（令和12年）の将来人口	見通し：9,905人
2045年（令和27年）の将来人口	目標：10,000人